

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300031		
法人名	株式会社アキズファイブ		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	名古屋市守山区小幡中三丁目4番2号		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成24年3月7日	評価確定日	平成24年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットのみのグループホームで家庭的な環境の中、利用者はゆったりとした生活時間を過されています。一人ひとりの個性を尊重し毎日を生き生きと自分らしく生活して頂けるように取り組んでおります。ホーム内が職員と利用者が一つの家族のように会話が弾んでいます。又、利用者同士がお互いを助け合いながら生活されています。毎日大きく美しく楽しい歌声がホーム内だけではなく外部にも広がっています。食事の面では美味しい物を楽しく食べて元気になれるように支援しています。健康面では医療機関と連携し24時間対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は地域に根差したグループホームを目指し、地域との関わりを大切にしている。それにより、地域からの入居希望の見学者も増えつつある。また、職員が参加している地域のほり絵教室でグループホームのことを紹介し、地域の方に知ってもらうよう取り組んだ結果、今では講師がホームにボランティアとして訪問しており、入居者の作品がリビングの壁を飾っている。入居者の身体的な自立度は高く、最高齢の方も自立歩行している。排泄についてもほとんどの入居者が自立しており、ホームに入居してから職員のケアにより、リハビリパンツから布パンツに向上した入居者も多い。今年度火災通報装置を設置し、災害に備えている。家族と入居者との関係を大切に、来訪時にはゆっくりと居室で話をしてもらっている。入居者の中には身寄りのない方もいることから、寂しい思いをさせないよう職員はきめ細かい配慮をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やさしさ、安心、だんらん」の理念の元、日々管理者と職員は入居者の方と接している。その結果、最近では理念に“元気”を加えたいと思うぐらいに入居者の方が明るく“元気”に過されている。	法人理念とは別にホームの理念を「やさしさ、安心、だんらん」と定め、誰もが気軽に立ち寄れるホームを目指している。1ユニットのため入居者間が緊密であり、笑い声が絶えないホームである。地域の方がボランティアとしてホームを訪れており、入居者に工作を手ほどきしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気候の良い時は毎日散歩に出掛けている。地域の方と接する機会がある時には積極的に挨拶を交わしている。その中で顔見知りになっていくと地域の方から声が掛かり会話を楽しみながら交流を深めている。	天候が良ければ毎日散歩に出かけ、積極的に地域の方と挨拶をしている。顔見知りになった近所の方からは花や農作物を頂くこともある。歌の発表会に近所の方を招待した時は、入居者も朝から化粧をしてウキウキした様子で本番を迎えた。地域住民であるチームリーダーを介してホームに見学者が訪問したり、地域浸透への手ごたえを感じている。	地域への浸透を感じはじめ、管理者はこれからは大切であると考えている。地域の自治会、老人会、子ども会等との連携を深める等、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事に地域の方を案内して入居者の生活状況を感じてもらっている。地域の方より施設見学の希望がでるようになってきている。入居を希望される方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では近況報告が主な話題になっている。医療機関よりアドバイスを頂いて職員に報告している。	協力医療機関の職員、いきいき支援センター職員、管理者、家族がメンバーとなっている。地域の方にも参加を呼びかけている。会議ではホームの近況報告を主にしており、機能訓練が必要な入居者のケアについて話し合ったこともある。メンバーの都合が合わず、数カ月にわたり開催が滞っている。	地域への浸透は時間がかかると考えられる。また、メンバーが出席しやすいよう曜日や時間帯等を工夫し、理解や協力が得られるよう今後の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは主に市役所の介護指導課、区役所の保護係、消防署方よりアドバイスを頂いている。	区役所には月に1度は出かけている。郵送で済む書類でも直接届けることで行政とのパイプづくりに力を入れている。法人の社会貢献策として進めている青年会議所での地域づくりのためのセミナーに積極的に参画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在まで一度も無い。身体拘束の必要な入居者もない。施設内は自由に行き来出来る様になっている。ただし玄関の施錠は安全上必要な時は施錠している。プザーも併用している	ほとんどの入居者は身体的に自立しており、現在まで拘束の必要もなく、事例もない。2階の階段には転落防止のための柵があるが、通常は入居者はエレベーターを利用している。避難訓練ではその柵を開放し、階段で避難する訓練を行っている。帰宅願望の強い入居者には、職員が本人が納得するまで散歩につきあうこともある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待等のニュースがある都度に管理者は職員と話し合っている。身体的虐待はなくても言葉の虐待もあり得るので注意するように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の立場を良く理解し、本人及び家族にとって良い選択が出来る様に権利擁護機関のパンフレット等を取り寄せて提供している。又、役所及び権利擁護関係者に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に需要事項説明書にて料金、サービス内容に関して説明し理解を得ている。家族が不明な部分は何度でも説明して理解を得ている。経済的に不安な方には将来必要とされる金額等を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は管理者、職員に伝える事は出来ていると思われるが、入居者の意見を汲み取り運営に反映されているか今後の課題である。	ホーム便りは発行していないが、年5~6回、個々の入居者の近況、行事での笑顔の写真を添付し、手書きの手紙を家族に送っており、家族の安心に繋がっている。医師の提案や家族の要望により、退院後の筋硬直防止のため訪問マッサージを介護計画に取り入れ、利用している入居者いる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて職員の要望、提案を聞き取りしている。会社の方針なども職員に説明している。	職員の希望休を優先しながら管理者は勤務表を作成している。入居者に変化があった時は、随時職員から聴取している。入居者の急変時における家族への対応など、職員間で統一した対応ができていないと管理者は感じている。	会議の開催が滞っているため、職員間での情報共有や対応の統一のために、会議を開催できるよう、今後の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を把握する事に努め職員の希望する勤務や労働時間になるよう配慮している。職員同士のコミュニケーションの場を設けて楽しい職場環境になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から資格取得の希望があれば全面的にバックアップしている。新人職員の教育は社内で教育している。今後外部研修に参加して行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者のネットワークに加入し交流会に参加して情報を共有するように努めている。近隣施設の行事に入居者と参加させてもらうこともある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に慣れる為に入居前、時間の許す限り本人家族様に施設に来て頂きおやつ、レクリエーションに参加して頂いて他の入居者と触れ合ってもらおうと努めている。入居後スムーズに安定した施設生活を送れるようになる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活は家族様もいろんな不安がたくさんあるので一つ、一つの不安を取り除くように努めている。グループホームの現状を見て頂き納得して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は家族も本人様も不安を持っているので問題があれば一つ一つ家族様又は各関係協力機関と相談しながらいち早く安心して生活出来るような環境作りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と暮らす中で馴染みの関係になり入居者が本音で話せる環境を作るように努めている。アセスメントにない情報等を聞き出し新たな支援に結びつくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族のおかれた状況の把握に努め、相談等に乗っている。入居者と距離のある家族には電話連絡や手紙、写真を送り近状報告をし疎遠にならないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、同僚、近隣の方の面会時は気軽に話せる環境を提供出来るよう努めている。又いつでも面会に来て頂けるように声掛けしたり年賀状を出したりしている。	遠方に住んでいる入居者の親族などとの電話、手紙のやりやりを積極的に支援している。長年勤めていた会社の同僚が訪問し、一緒に喫茶店に出かけることもある。独居の人や身よりのない人がいる手前、家族の面会はなるべく個々の居室で対応してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者が入居されるとすでに入居者されている方が積極的介入されて新しい方の不安を取り除いて下さる。新しい環境にすぐに馴染まれる。みんなで居る場所が助け合う場所になり安心できる環境でもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も連絡を取り合ったり、面会に行ったり、事業所を訪問されたりして経過を見ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で一人ひとりの希望、意向の把握に努めている。普段の何気ない会話より本音を聞きだすように努めている。	普段は食材は業者により納入されているが、盆と正月は入居者の希望を聞き、おせち、すき焼き、七草粥などを提供している。入居者が荷物を持って動きだしたり、物を探し始めたりすると、そのまま一人で外へ出かけてしまうことが多いため、その時は職員がそっと寄り添い、落ち着くまで散歩したり話を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にアセスメントにて家族より情報を得ている。入居後は本人よりすこしづつ生活暦等を聞き出し日々の生活支援に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で一人ひとりの状態を観察しながらその人の出来る事、出来ない事を見極め職員が情報を共有している。出来る事は伸ばし、出来ない事も出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは面会時に入居者に変化がないか入居者の要望、家族の要望を聞き取りしている。家族と距離感がある入居者が多く家族の意見を取り入れることが難しくなっている。医療関係者の意見を取り入れ体調管理に反映している。	遠方に家族が住むケースや、身よりのない入居者がいることから、直接家族の希望を聞くことが難しくなっている。医師の意見を取り入れ、半身麻痺や歩行困難者のために訪問マッサージを利用したり、糖尿病の入居者の体重、血糖管理に気を配っている。	ケア会議の開催が滞っているため、職員による進捗状況の確認や職員の意見を反映した介護計画に至っていないと職員も管理者も感じている。チームでつくる介護計画を目指し今後の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の情報を共有しながら介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人、医療関係者と相談し、半身麻痺、歩行困難な入居者に在宅マッサージを取り入れていて改善に向かっていて。家庭菜園を行っている入居者の支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を受けて楽しい環境作りを支援している。訪問美容師により定期的に髪をカットしている又、美容室に送迎する支援も行なっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関により定期的な診療が受けられる。訪問診療(2回/月)、訪問看護(1回/週)訪問歯科(2回/週)、眼科への通院を支援している。	入居時に協力医療機関について説明し、かかりつけ医の変更をお願いし理解を得ている。認知症等の専門医は継続してもらい、受診には家族が同行し、病状は受診後に家族よりホームに報告をお願いしている。協力医は24時間対応で入居者を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師に相談に乗って頂いている。入居者の状態を把握されているので緊急時でも職員は安心できる。(24時間対応)月2回勉強会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は協力医療機関と相談しスムーズに入院できる体制になっている。入院後はケースワーカー等連絡を取り合っており対応している。家族の居ない入居者には馴染みの職員が面会に行きストレス等の軽減に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関しては利用者、家族と事前に意向を確認しその後も十分に話し合い検討しながら最善の方向に進めるよう協力と努力を惜しみません。基本方針としましてホームにて最期を過したいと言うご希望があればご意向に添えるよう努力致します。	看取りについては、ホームの方針を同意書に明文化し、入居時に説明して同意を得ている。重度化し、医療的処置が必要となるまではホーム内で支援を続け、医療処置が必要となった時は、入院や施設などへの移転の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目に付く所に心肺蘇生方法や急変時の対応マニュアルを提示し適切に対応が出来るようにしてある。定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回行っている。火災通報装置の設置が完了した。地域との協力体制を進めて生きたい。	昼間と夜間を想定し、年2回火災時の避難訓練を入居者と共に行っている。火災通報装置等の設置が完了し、使用方法を消防署員より指導を受けたのを機に、次年度には火災通報装置を使用した訓練を計画している。備蓄は現在ペットボトルの水を3日分用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの状況を把握したうえでその人を思いやりながら言葉を掛けるよう努めている。職員同士で言葉の掛け方について話し合っている。	居室に籠りがちの入居者もおり、プライバシーに配慮し過ぎると孤立してしまうことに繋がるため、職員は常に声をかけながら様子を確認している。入居者の名前を呼ぶ時にはさん付を基本としている。女性の場合は名字で呼びかけるよりも名前で呼ぶ方が本人にとって親しみがあるため名前にさん付で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々暮らしの中で入居者の希望や願い事が自然に出やすいような環境作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本スケジュールはあるが、その時々に合わせてスケジュール変更など柔軟に対応している。施設内は居室など自由に行き来できるが居室で過ごすより皆が居るリビングが落ち着ける場所になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の居ない方、縁遠い方には化粧品、洋服の購入などその人らしい身だしなみやおしゃれの支援に努めている。馴染みの美容院への送迎支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者より食材の供給を受けてホーム内で調理し提供している。入居者と共に調理する機会は少ないが後片付けと一緒にしている。外食、出前等も取り入れている。	食材は献立表と一緒に業者に宅配してもらっている。献立は当日の料理当番の職員が入居者に合うようにアレンジして調理している。年末は宅配ではなく、近くのスーパーに年末・年始の食材の買い出しに行くが、入居者も一緒に行くこともある。身体的に自立している入居者が多いことから、職員は介助をしないで見守り、話しかけるなど食事が楽しくなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立にて提供しておりバランスの取れた内容になっている。体重の増減も毎週確認している。一人ひとりの好み、嚥下状態等把握して食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一人ひとりの状態に応じて根気良く声掛けして習慣になるよう努めている。定期的に歯科医、歯科衛生士の往診を受けて清潔維持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。リハビリパンツから抜け出した方もいる。失禁される方には早めの声掛けを行って本人に意識を持ってもらうように努めている	トイレ介助の必要な入居者には、排泄パターンや行動パターンを把握し、職員が声をかけトイレに誘導している。現在は、紙おむつの使用者はなく、少数の入居者がリハビリパンツを使用し、自立の入居者は布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には散歩などの運動を取り入れたり水分補給をまめにしている。医療機関とも相談し下剤の使用は極力抑えて自然排便になるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴機会があるので一人ひとりに合わせた入浴支援が出来る。浴室は入居者同士や、職員とのコミュニケーションの場になっている。入浴が単なる清潔維持の場ではなく楽しめる環境作りに努めている。	入浴は火、木、土曜日の午後に入っている。入浴日には7～8人が入浴できるように配慮している。入浴嫌いの入居者には冬は下着交換を行い、夏は清拭で対応している。体調も考慮しながら、週に1回は入浴してもらえるよう支援している。入浴剤は使用していないが、季節に合わせて菖蒲湯にして楽しんでもらえるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じていつでも居室にて休めるようになっている。就寝時間もそれぞれ好きな時間に休まれている。寝具、寝間着等の清潔維持に努め休まる環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の情報がいつでも確認出来るようになっている。毎週訪問看護師に入居者の状態を報告し体調管理に努めている。訪問看護師記録、訪問診療記録、を残し入居者の健康管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のやる気を引き出す為に達成感を感じてもらえるような環境作りに努めている。日々の暮らしの中で色々な物事に参加していただき、張り合いや喜びを感じた生活を送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は近隣の散歩が主になっている。家族の支援の下、お墓参り、旅行、外食など行われている。	天気の良い日は近所を散歩をしている。外出を好まない入居者には無理強いはせず、声をかけ気分転換を図っている。初詣やお花見、紅葉狩りなどに出かけており、自立歩行ができる人、難しい人等、入居者の状態に応じて車を使用するなど、外出支援を行っている。家族の協力を得て外泊支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている入居者の方もいる。大半の入居者の方は家族又は、施設側で金銭管理している。手元に金銭を所持したいとの希望があれば渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて家族、友人と連絡をとられている方もいるが、大半の方が施設側が電話を取り次いだり、近状報告の手紙や写真を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の台所、食堂、居間、トイレは入居者が混乱しない分かりやすい配置になっている。窓も広く取ってあり明るい。又、木造建築なので柔らかく落ち着いた空間になっている。常時季節の花が飾ってあり季節感も味わえる環境になっている。	居間には大きなテーブルが置かれている。テレビの前にはソファが置かれ入居者の憩いの場となっている。季節柄、インフルエンザ対策として加湿器、空気清浄器を使用して健康管理に努めている。暖房器具は安全のためにオイルヒーターを使用している。管理者の結婚が近いため、入居者全員で祝いの歌を練習している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、居間で過される事が多いが入居者が一人又は、仲良しの方と過せるように色々な場所にソファが置いてある。入居者は思い思いの場所で自由に過されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、家族、本人と相談し、家具の配置を決めている。入居者の馴染みの物や花を置いたりして落ち着いた空間作りに努めている。	居室のドアに鍵は付けていない。ドアの一部は刷りガラスになっている。ベッド、エアコン、タンス、照明器具、カーテン、部屋によってはソファも備え付けである。自分の使い慣れた家具を持ち込む方もいる。仏壇はスペースを取るため位牌の持ち込みでだけで理解してもらっている。室内のカレンダーは毎月入居者が手作りしたものが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内で入居者が混乱ないように居室の配置、解りやすいように各名称の掲示に努めている。混乱が起きればすぐに対処している		